

愛知サークル1 1月例会報告

2019年11月23日（土）名東小学校 参加：6名

I 「表現教材」の追求

① オペレッタ：「おむすびころりん」（1年）

○ 形だけでやろうとすると破綻する。まず、音読をしっかりとやり、子どもたちがお話の中に入っているかが鍵である。

② オペレッタ：「手ぶくろをかいに」（3年）

- 冒頭の風の表現だけでも、まず音先行で、次々と勢いよく入るなど、工夫の余地がある。
- バックの子が、同じ場所に固定しているのはもったいない。もっと場所を移動すべき。
- 真横を向いている子が多いので、対話の場面など、斜め前を向かせるとよかった。
- 例会だけでは限界があるので、PCで画像を共有し、その映像を同時に見ながら電話でやり取りしたことは有効だった。
- 全体の構成、演出は教師主体で、見ている人のことも考えて（対応して）行うべき。
- 演出は、少しでもいいものを追求するならば、当日の朝も変更することはあり得る。

③ 体育：「大きな前まわり」（1年）

- わしづかみは、マットを持ち上げるくらいつかむ。
- 視線は、へそ。（腹筋と背筋を鍛える。）
- 子ども同士で腰を持ち上げる補助をさせることで、恐怖心をなくし、腕で体重を支える感覚をつかませることを徹底すべき。

④ 合唱：「おちば」（1年）

- 冒頭の「お」で勝負をする。前奏でイメージを形成させ、最初の1音で勝負させる。
- 「あ」の口が基本中の基本。「あ」の口で「お」を歌わせる。

⑤ 描画：「秋の空」（3・4年）

- 背景を全部塗ってからコスモスを描いているので、コスモスが淡い色合いだと花の色が出ない。ススキも透明すぎ。もう少し、植物の色を濃くするとよい。
- 空と植物、どちらが主なのか。
- 遠景に遠くの山々を下の方に入れた子の絵がよい。

II 「文学教材」の追求

① 「ごんぎつね」（3・4年）映像記録

- 中心は「夜でも昼でも、いたずらばかりした原因は何か」である。これが大問題なのは、異常だからである。夜だけじゃなく、昼までやっているのはよっぽど異常だという風にやる。
- 板書も、構造がクリアーに分かるように立体的にした方がよい。
- 「ばかり」と「夜でも昼でも」の追求は、まず異常性を浮き彫りにし、その原因として「ひとりぼっち」が拳がり、「ひとりぼっちって何？」というように流れていく。

② 「おとうとねずみち口」（1年）教材解釈

- 4場面最後の「あ、り、が、と、う」が、再度わざわざゆっくりと一語一語切って言っていることがおかしい。おばあちゃんに伝えたかったち口の強い心情とは？